

チャの細根分布および量と寒干害の発生

矢野清・常包一明・安部秀雄

1984 年 2 月上中旬にチャの寒干害が発生し、発生面積率は 37%にも及んだ。満濃分場内の 3 年生茶園での発生程度は土壌の種類あるいは品種間で異なった。従って、寒干害の発生には低温・乾燥などの気象要因のみならず、チャの内在的要因が示唆されたので、細根の分布および量と寒干害発生の関係を検討した。

1. 寒干害の発生程度は樹冠面の南側で著しく、三豊累層土壌あるいは"あさつゆ"で著しかった。
2. 茶株の南側での細根量は花崗岩土壌が最も多く、洪積層土壌が次いで、三豊累層土壌は最も少なく、三豊累層土壌での細根の分布は浅かった。また"あさつゆ"の細根量は少なく、浅い分布であった。
3. 細根の分布および量と寒干害発生の関係は、単相関からは細根量の少ないものほど、重回帰分析からは細根量が少なく、しかも浅い分布のものほど寒干害の発生が著しくなると考えられた。